

めぐニュース

かぐめよし少年自然の家だより 令和5年7月発行

先日まで続いた大雨の影響で、かぐめよしのそばを流れる紫川もかなり増水していましたが、幸いにも被害を受けることはありませんでした。水量も落ち着いてきたので、川の様子を見に行くと、増水前と雰囲気がいぶん変わっていました。普段は苔で茶色っぽい川底の石が、転がったり、ほかの石とこすれあったりして、付いている苔が取れてきれいになっています。日が差して2週間もすると、また苔が生えてきて元の状態に戻ります。

不思議に思うことが一つ、川で生活している生き物たちは、川が増水した時、どうしているのでしょうか。大きな岩や流木の陰に隠れて流されないようにしているのでしょうか。そういえば、カヌーで激流を下る時も、エディ（川の本流の向きとは逆に向かう流れができる場所）に入って休憩していたことを思い出しました。私たち人間は、魚のように水の中では呼吸が出来ません。これから夏本番。川で遊ぶ時は、体のサイズに合ったライフベストを着けましょう。ライフベストを着けることで、いざという時に自分の命を守ることが出来ます。



主催事業のお知らせ 8月~10月

	事業名	時期	対象者・人数
8月	水環境体感キャンプ（本番）	8月1日（火）～4日（金）	
9月	かぐめよし自然少年団③	9月2日（土）～ 9月3日（日）	かぐめよし自然少年団に所属する団員
	家族でキャンプだホイ！	9月23日（土）（祝） ～9月24日（日）	中学生以下とその保護者 7家族
	第1回はじめての陶芸教室	9月30日（土）～ 10月1日（日）	小・中学生とその保護者20名
10月	第2回観天望気学習キャンプ	10月14日（土）～ 10月15日（日）	小学5・6年生20名
	秋の福智山登山	10月29日（日）	小・中学生とその保護者20名

※主催事業の募集は全て市政だよりに掲載します。応募は市政だよりをご覧ください。お申込み下さい。



主催事業報告



第1回ボランティア研修会



今年度初めの主催事業となりました、第一回ボランティア研修会。新規入会者3名、在籍者4名の計7名で様々な活動を行いました。『同じ釜の飯を食う』と言いますが、自分たちで収穫した山菜を夕食と一緒に食べたことで、より深い交流ができました。

座学の研修では、野外調理での危険な場面を考え、共有しました。実際にボランティアとして関わる場面をイメージ出来たのでないでしょうか。積極的にボランティアとして参加していただき、たくさん交流していただければ嬉しいです！

第1回かぐめよし自然少年団

今年度のかぐめよし自然少年団は、継続団員20名、新規団員9名の29名で活動をする事となりました。

初めての活動は、野外活動の基本となるテント設営、火おこし、野外調理、ロープワークなどの活動を行いました。活動中、新規団員らにテントの立て方や火おこしの仕方など、継続団員たちが丁寧に教えてあげている姿がみられて、継続団員の成長と頼もしさが伝わってきました。今年度も楽しい活動が目白押しなので、第6回が終わる頃には、優しくて逞しい団員になってもらえたらと思います。



所員一同全力でバックアップしますので、全力で楽しみましょう！！

第1回観天望気学習キャンプ



まずは、天気に移り変わる仕組みを学びました。空気が温まったり冷えたりすることで、空気が動き風や雲ができること。温かい空気と冷たい空気が出会うと、そこに前線ができて、雲の変化とともに天気も変化すること。さらに、高気圧から低気圧に向けての風の向きが、コリオリの力で変化すること。夕焼けが赤く見えることなどを、身近な材料を使って実験しながら確かめました。また、カルタで楽しく観天望気を学んだり、自然の中でテントを張り天気の変化を実感したりもしました。秋は、台風のことも学習します。楽しみにしててください。



かぐめふるさと交流

久しぶりの家族対象主催

事業。マスクを外して、お互いの笑顔を見ながらの交流のおかげか、参加者の皆さんのチームワークが素晴らしい！！初対面の親同士、子ども同士がすぐに仲良くなって、協力してテントを立てたり、食事の準備に和気あいあい。



今季初のそうめん流しに川遊び、焚火にテント泊、興味別活動など盛り沢山。かぐめよしの自然を2日間たっぷり満喫していました。

かぐめよしを、田舎に帰ってきたみたいに、第二のふるさとの様に思っています。そんな思いから始まったこの事業。皆さんの第二のふるさとになれたかな？



かぐめバンブーキャンプ

竹林は、豊かな自然をあらわしているのでしょうか？放置された竹林は、豊かな自然とは言えません。今回のキャンプでは、竹の有効活用を通して、豊かな自然の再生を願って実施しました。竹をチップーにして、土壌の改良を考えてみたり、放置竹林から切り出した竹で竹炭を作ったりしました。食事には孟宗竹を使った竹筒ごはん、それに自分達で割って節をくりぬいた竹を使ったそうめん流し。竹の棒にパン生地を巻き付けた棒パン。夜には、蛍・蛍・蛍…。帰りは、布袋竹の杖、青竹踏み、見事にできた竹炭がおみやげになりました。



家族でキャンピング&アウトドアご飯

8家族が参加して行われた今回の主催事業。ほとんどの家族が初のテント泊。なので、子どもたちは皆ドキドキワクワク！

みんなで協力してテントを張った後は夕食作り。丸鶏にニンニクや野菜を詰めたらダッチオーブンへ。美味しくそうに焼き上がった姿に歓声があがっていました。棒パンも、焼きトウモロコシも美味しかったですね！1日の最後は蛍狩り。乱舞する蛍にみんな大喜び。そして、静かにわんぱく広場テント村の夜は更けていきました。

2日目は、興味別活動で、川とサイクリングロードに分かれて活動。おやつで食べたスイカ、美味しかったですね！！



※5月5日（金・祝）に予定していました「春の福智山登山」は荒天予報だった為、中止しました。

頂吉図鑑 ～第32回～

藪肉桂（ヤブニッケイ）



今回ご紹介するのは、ヤブニッケイです。北九州の山ならどこでも出会える樹で、珍しいものではありません。ただ、これがヤブニッケイと自信を持って答えられる人もまた、少ないのではないのでしょうか。というのもそっくりな葉を持つ樹があるからです。

よく似ているもののひとつは楠（クスノキ）です。ヤブニッケイはクスノキの仲間ですので、当然と言えば当然です。見分けるには一つには、鼻を使います。葉を揉むとどちらの葉もすくと鼻に抜ける香りがありますが、香りの強い方がクスノキです。もう一つは、目を使う方法。葉脈が三つに分かれるところをよーく目を凝らして見てみてください。クスノキの葉の表には小さなふくらみがあります。裏側には小さな穴があります。これは葉ダニのお家です。なんと全ての葉にお家があります。

よく似ているものの、もうひとつはシロダモです。同じクスノキの仲間ですが、冬になるとクスノキやヤブニッケイの黒い実とは違って真っ赤な実がなります。葉の裏側が白っぽい蠟質に覆われるのが特徴です。

ヤブニッケイの名の由来は、ヤブは「似ているが役に立たない」の意で、ニッケイに似ているが役に立たないところからついたと言われていています。ニッケイというよりニッケ（ニッキ）水、ニッキ飴、若しくは京都の銘菓、「八つ橋」の香りと言った方が分かりやすいかもしれません。実はニッケイは、頂吉にも何本かあります。ニッケイの葉はヤブニッケイとよく似ていますが、葉脈が葉先まで伸びていること。香りがより甘く感じられることで区別できます。ニッケイの根を齧っていた子どものころを思い出す郷愁を誘う香りです。

ニッケイの仲間には中国原産のシナニッケイ、スリランカ原産のセイロンニッケイなどがあります。セイロンニッケイは、シナモンとも呼ばれます。こちらの名の方が有名ですね。回り道をしましたが、ヤブニッケイの香りは、シナモンに似ているというお話でした。

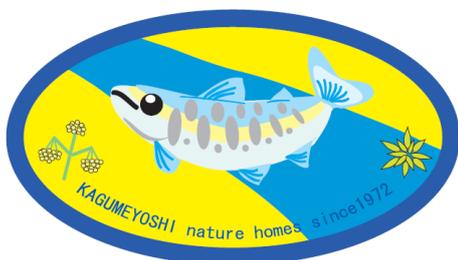


北九州市立かぐめよし少年自然の家

住所：〒803-0267

北九州市小倉南区大字頂吉451-1

電話：(093) 451-3111 FAX：(093) 451-3133



Facebook



Instagram